

O・Bサミット開会式

召集者挨拶

福田 赳 夫

日時 昭和五十八年十一月十六日
場所 ウイーン・ホーフスブルグ宮殿

ホーフ

本日、Inter-Action Council of Former Heads of Government (O・Bサミット)の第一回本会議が開催されるにあたり、コンビナー(召集者)として御挨拶申し上げる機会を得ましたことは、私の最も光栄とするところであります。

今日、ここに御参会の皆様におかれましては、夫々の国で、国政の最高の責任を担って来られた方々であり、今日に於ても、国の内外を問わず、大変御多用の折にも拘りませず、遙々、ウィーンの地に御光臨賜りましたことに対し、茲に衷心より敬意と謝意を申し上げます。

なお、この会議の当地開催を快くお引受け下され、且つ、何かと御便宜を与えていただいたことに対し、キルヒ・シュレーガー大統領閣下、並びに、シノバック総理大臣閣下をはじめ、オーストリア政府関係各位に対し、深甚なる敬意と謝意を申し上げます。

又、第一回のこの会議開催までの間、本年三月、当ウィーンでの設立委員会や、その後四回に亘って開催された執行委員会を通じ、終始情熱を傾け、会議の構成・推進を図って下さった前国連事務総長ワルトハイム博士、コロンビアのパストラーナ・ボレロ元大統領、U・N・D・Pのブラッドフォード・モース事務局長、並びに、そのスタッフの方々に対し、深い感謝の意を表したいと思います。

私は、世界平和が、今、戦後最大の危機に当面していると考えております。この危機への対処を誤ると、世界的、地球的悲劇も起りかねないと心配しています。

今、世界平和は二つの側面から脅かされていると思います。一つは経済的側面からであり、もう一つは政治的、軍事的側面からであります。

さて、今日、世界経済情勢を大観しますと、一般に生産活動は縮小し、投資は停滞し、金利は高水準で且つ不安定であり、為替変動幅は大きく、又、保護貿易主義の傾向もあり、貿易は阻害され、茲三年間世界貿易量は下降し続けています。かくて世界の殆ど凡ての国が不況に陥り、失業に悩んでいます。OPEC諸国もコメコンの諸国もその例外ではありません。

正に世界同時不況と申すべきでしょう。その中で、南の国々の困窮がその極に達しようとしていることは、特に留意しなければならぬところでもあります。

この世界同時不況は、われわれが経験する二度目のものであります。最初のもは、五〇年前即ち一九三〇年代の不況であります。一九三〇年代同時不況は、遂に、第二次世界大戦に発展したことは御承知の通りであります。

今回の不況も、更にこれが長びくと、その中からどのような不幸な事態がとび出すか誠に不気味なものがあります。

長期に亘る経済不安は平和の敵であります。それはやがて社会不安を招き、遂には政治的悲劇につながって行くことは必至と思えます。

世界平和は、このように経済的に危機に立ち臨んでいます。他方、その政治的、軍事的側面はより深刻であります。

戦後三十八年間、世界政治は東西対立という枠組で動いて今日に至りました。その中で、時には東西緊張の時期もあり、緩和、雪どけの時期もありましたが、不幸にして一九七〇年代の中頃から、東西は危険を孕んだ緊張激化の時代に入っております。アフリカの各地で、中東各地で、カンボジアで、中米での幾多の事件は東西緊張の吹出物とも申すべきものであります。極く最近の韓国旅客機撃墜事件、ラングーンに於ける韓国要人爆破事件、イラン・イラク戦争、レバノンやカリブ海の動き——どの一つをとっても、サラエボの一発以上のものであり、戦慄を覚えずにはいられません。

東西関係の中で特に注目すべきことは、軍拡競争であり、それに伴う、両陣営の軍事費の膨脹です。

今、東西の軍事費は急増しております。この急増は各国の財政赤字の主要因ともなっており、世界経済活性化を阻んでいます。それはそれとして、この軍事費急増の勢は、放置したら悪循環をくり返しながら際限なく続くでしょう。その落ち行く先は何処でしょう。核は、広島に投下されたその百万倍ものものが備蓄されるに至っております。そして、その核が使用されないという保障はどこにもないのです。恐ろしいことです。

以上、私は今日の世界情勢について、私の見解を簡単に申し上げましたが、このような経済

面や政治面の不安が相絡み相もつれ合うとき、不測の事態が、更に不測の事態を招き、地球的、人類的不幸に発展する惧れなしとせず、このことが、当面の世界情勢について、私の最も懸念するところであります。

私は、世界政治の最大の課題は、世界を覆う政治的、経済的不安を克服し、世界平和を護り抜くこと、この一点にあると思います。

われわれは当面の事態を乗り越えなければなりません。しかし、われわれが今日のこの事態を乗り越えたとしても、さらにわれわれの将来が長きに亘って、平和で、且つ、豊かであるという保障はどこにもないのです。われわれは当面の事態を乗り越えるときにも、迫り来る二十世紀への布石を、今日速かに進める必要があります。その布石としては多くの重要な問題があります、その最も象徴的な課題は「人口と開発」の問題であることをここに改めて指摘しておきたいと思えます。

以上申し述べたような、困難な状況を前にして、現に政権を担当している指導者達が、各々、それぞれの立場に立って世界平和のために努力していることは勿論のことと思えます。しかしながら、この重大な時機に当り、嘗て夫々の国の最高指導者として、内外の政治運営に当られ、幅広い経験と見識を積まれた方々が、高度の英知と経験をもち寄って協議することは、世界人類のため、大きな貢献となると信じております。以上が今回この会議が開催されるに至つ

た所以であります。

今回のような広般な会議は史上はじめての試みであります。この会議に対し、世界の多くの人々が大きな関心と期待を寄せています。われわれはその関心と期待に応えなければなりません。

より平和で、より豊かな世界のため、実り多い成果を挙げようではありませんか。